

IBM(IBM)

【セクター】 情報技術

【市場】 NYSE

【企業概要】

企業向けITサービスで世界最大の会社です。部門別の売上構成比は、人工知能の「Watson」を中心としたプラットフォームや一般的なITサービスを提供するコグニティブ・ソリューション＆インダストリー・サービス部門44%、クラウドを含むITインフラを提供するテクノロジー・サービス＆クラウド・プラットフォーム部門が43%、ハードウェアが中心のシステム部門が10%、グローバル・ファイナンス部門が2%です。地域別の売上構成比は、米州が48%、欧州・中東・アフリカが31%、アジア太平洋が22%です（17年12月期）。

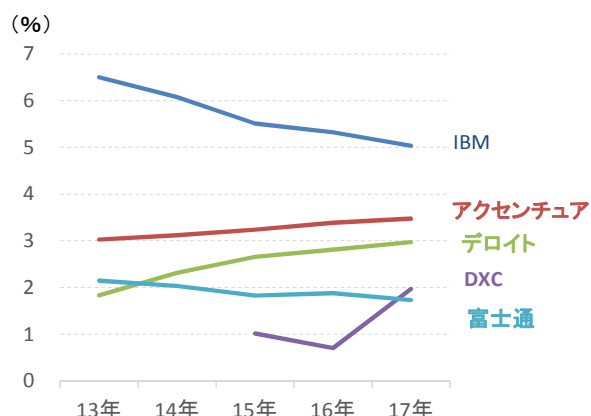
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	79,919	13,174	13.74	5.50	19.3	73.0	15.7
17年12月期	79,139	12,401	13.23	5.90	19.1	32.1	14.1
18年12月期予想	80,235	12,641	13.81	6.22	23.5	60.5	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

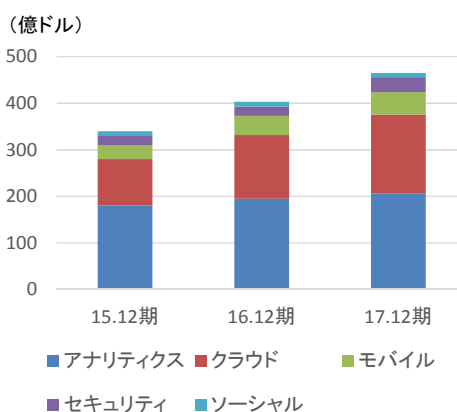
【主要指標】

図表1 ITサービスの世界シェア



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 「戦略上不可欠な分野の売上」の推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

企業のITシステムがクラウドへ移行する中で、従来型のシステムでトップシェアの同社はシェアを失う部分があり、ここ4～5年は売上・利益とも停滞しています（図表1）。これを打開するためビジネス・アナリティクス、クラウド、モバイル、セキュリティ、ソーシャルを「戦略上不可欠な分野」として重視、同分野の売上構成比は17年12月期に59%まで上昇、前年比15%増加しています（図表2）。ただ、それ以外の落ち込みで全体の売上成長は高まっておらず、株式市場で評価されるためには売上増加を示す必要があります。

【見通し・注目点】

四半期売上は17年10-12月期から前年同期比でプラスに転じ、緩やかながら業績には改善の兆しが見られます。米国企業は法人税減税の恩恵を受けてIT投資を増やすことが想定されており、同社もその恩恵を受けることが期待されます。18年12月期の業績ガイダンスは、調整後EPSで「少なくとも13.80ドル」としています。

（SBI証券 投資情報部 栄 聡）

（更新日 18/10/10）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。